

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

平成12年度 第27回 総会 報告

日時：平成13年3月22日(木)

午後2時15分～4時

会場：国立京都病院 講堂

総会プログラム

開会

- 1 会長挨拶
- 2 議長・副議長・書記選出
- 3 議案審議
 - 1) 平成12年度活動報告
 - 2) 平成12年度会計・監査報告
 - 3) 平成13年度活動方針(案)
 - 4) 平成13年度事業計画(案)
 - 5) 平成13年度予算(案)
- 6) 役員改選
～ 小憩 ～
- 7) 平成13年度会長・事務局長承認

閉会

議長：市立堺病院 田中 典子
副議長：西宮市立中央病院 中嶋 和子
書記：南大阪病院 岸田 郁葉

総会員数：119機関

出席：29機関

委任状：60機関

合計：89機関(会員の2/3以上の数を
みだし総会成立)

議案 I 平成12年度活動報告

はじめに

近畿病院図書室協議会は1974年秋に設立されて、2000年の11月でまる25年を経過した。そこ

で、これを記念し今後の病院図書館のさらなる充実をはかり、これからの医療に益々寄与することを期して、記念行事を執り行なった。10月28日、創立20周年記念の時と同じ京都市国際交流会館において、記念講演とシンポジウムをメインとする「創立25周年記念フォーラム」を開催した。当日は会の内外、さらにOBも交えた多くの関係者が参加し、懇親会では京都南病院軽音楽部の生演奏が華を添えた。

そのうち、記念講演では注目の先端医療の分野における「医の倫理」を学んだ。また、情報のデジタル化やインターネットの普及によって新しい局面を迎え、特に学術情報の流通において課題を含む著作権を、シンポジウムのテーマとした。

その内容は次のとおり。記念講演：「医学と生命倫理」加茂直樹(京都女子大学教授)。シンポジウム：「病院図書館と著作権」(1) 著作権の法的側面その趣旨と目的、黒澤節男(九州芸術工科大学教授)(2) デジタル情報化時代における著作権の現況、名和小太郎(関西大学教授)(3) 病院の機能と図書館への期待、中村充男(社会保険神戸中央病院院長)(4) 病院図書室における医学情報サービスと著作権、山室真知子(京都南病院司書)(5) 医学情報の現況と独自性、首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院司書)座長：粉川皓仲(国立京都病院院長)。

また、この記念行事当日、当協議会の設立に尽力があり、その後も今日まで会のために功績のあった5名の会員図書館員に感謝状と記念品を贈呈した。

次に、会全体の活動運営では、それまで2万円であった年会費を7年ぶりに3万円に引きあげ、役員や事業協力者の負担の軽減とともに、新規事業の容易化を図った。その中で、会誌を

【病院図書館】に誌名変更し、新装なって特集「病院図書室と利用者教育を考える」を組み、20巻1/2号を発行した。3号では「看護部と図書館員のかかわり」を特集し、要望の多い看護部門への対応を考えた。また、前年から編集を進めていた連載記事の単行本刊行化が実現し、会誌の別冊号として『わかる医学用語』（濱口恵子著）を秋に発行した。さらに、3回にわたる勉強会や2回の研修会開催、毎年の作成を事業化した現行医学雑誌所在目録も例年どおり発行した。事務局関係では事務作業量を軽減するため、外注化が進んだ。また、ホームページ運営の強化を図るため編集協力者を設けることになった。

対外交流では、病院図書室研究会との共同事業は従来どおり運営や作業が進められた。特に「認定制度」の実施においては、試験を主体とする現実的な計画案が新たに採用された。また、共同運営ホームページ「フォリオ」はアクセス件数も2001年1月末には5万件を突破し、インターネット関連のメジャーな書籍においても紹介されるまでになった。しかし、秋に京都市で開催予定であった共同事業運営会議は、病院図書室研究会の申出により年内の開催は延期となった。

一方、近畿地区医学図書館協議会とは従来どおり連携を密にし、東海地区医学図書館協議会には『医学雑誌総合目録 1997年版』の書誌データ流用について、その意義を認めて提供した。また、年末には京都大学大学院医学研究科からEBMに関するワーキンググループ活動の協力依頼があり、1月早々からは『成人慢性関節リウマチ診療ガイドライン』作成に向けて、共同作業班が編成され活動を進めている。

I-1 各事業部報告

I-1-1 研修部

【第7回勉強会】

日時：2000年7月27日（木）13：00～17：00

場所：淀川キリスト教病院老人保健施設会議室
会費：500円

テーマ：図書の補修

講師：島原安三（株式会社 伊藤伊 大阪営業所）

参加者：19名

【第8回勉強会】

日時：2000年8月10日（水）13：00～17：00

場所：阪和記念会館会議室

会費：500円

テーマ：病院図書室“初めの第一歩”

講師：研修部

参加者：8名（うち研修部3名）

【第9回勉強会】

日時：2000年8月16日（水）13：00～17：00

場所：済生会兵庫県病院図書室

会費：500円

テーマ：身近なパソコン利用

講師：田中文子（済生会兵庫県病院）

参加者：12名

【近畿地区医学図書館協議会平成12年度シンポジウム】

日時：2000年11月16日（木）13：00～17：00

場所：天理よろづ相談所病院

（含：天理大学附属図書館見学）

参加者：8名

【第94回研修会】

日時：1996年12月17日（火）10：00～17：00

場所：住友病院講堂

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. 看護職が望む病院図書室

講師 末原紀美代（大阪府立看護大学母性看護学科）

2. 病院図書館と看護大学図書館の連携—大阪府看護図書館連絡調整会議の発足について—

講師 大前 富美（大阪府看護大学附属図書館）

3. 国内医学文献データベースの現況

講師 松下 茂 (株サンメディア)

4. 住友病院図書室紹介－住友病院図書室の
看護職へのサービス－

講師 松本 純子 (住友病院)

参加者：32名 (うち非会員6名)

【第95回研修会】

日時：2000年3月22日(木) 10:00～12:00

場所：国立京都病院

会費：500円

プログラム [事例・研究報告会]

1. 近畿病院図書室協会受託事業 [学術雑誌総合目録] を使った雑誌所在調査1997～2000年報告
大阪府立母子保健総合医療センター 中村雅子
2. 病院図書館員認定資格に関する事業の経過報告
星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子
3. 図書室担当後一年をふりかえって－病院機能評価：準備から受審まで－
大阪労災病院 北川佳世子
4. 京都大学大学院医学研究科とのEBM情報システム・ワーキング活動－中間報告－
国立京都病院 小田中徹也

座長：松阪中央総合病院 森川 治美

参加者：29名

今年度は10月28日に開催された近畿病院図書室協会25周年記念フォーラムに研修部として協力することになったため、年2回の研修会、3回の勉強会、並びに近畿地区医学図書館協会のシンポジウムを行った。

2回の研修会のうち、年度末の1回を例年通り事例・研究報告会としたため、通常の研修会は1月に行った会のみとなった。

テーマとしては、近年研究研修活動が活発になってきて、それに伴って利用が増加してきた看護職へのサービスを考えてみることにした。病院職員の半数を占める看護職へのサービスは今後更に増加して行くと考えられるので、看護

教育の側面から考えたいと看護大学からの講師を招聘した。ともすれば医学図書館へ眼が向きがちであるが、看護大学・看護教育機関との連携の重要性を再認識させられた。

事例・研究報告会は毎年のことながら、応募が少なく、事例集めに苦慮しているのが実状であるが、今年度は当会が関係する研究活動の中間報告など、会としての広報活動の一端を担うことができた。

研修会の開催数が少ない分を補う意味もあって、勉強会を3回開催した。また、通常の研修会では取り上げにくいテーマを扱ってみてはどうかと考え、図書の補修、病院図書室の初歩、身近で使えるパソコンなど、日頃知りたかったテクニック、疑問・質問など、日常業務に直結したものを選んだ。3回の勉強会を連続3週にわたって行ったが、複数回参加者も含め、多数の参加を得ることができた。

近畿地区医学図書館協会平成12年度シンポジウムは当会からも実行委員として参加しており、今年度は天理でEBMをテーマに開催された。今回は薬学図書館との共催ということもあり、多数の参加があった、当会からの参加は8名に留まった。内容としては今話題のEBMについて、初歩から司書としての関わり方まで、今後の図書館・司書のあり方を考えることができた。

年間を通しての研修部事業の評価としては、勉強会での新規の参加者の増加があげられる。少人数での勉強会では身近な話題や作業を通じて親睦を深め、今後の担当者同士の交流につながったと考える。一方、研修会の開催数は少なかったが、研修の場への参加がだんだん難しくなってきた現状を考えると、研修会の回数を少なくしても内容を吟味することによって会員の研修に寄与するといったことも一つの選択肢として、今後の検討にゆだねたい。

また、研修会の資料は保管しているので、必要な方は研修部に問い合わせ頂きたい。

今年度は研修部員として、大阪府立母子保健総合医療センターの徳田雅子氏、済生会兵庫

病院の田中文字子氏、阪和記念病院の亀井真由美氏、南大阪病院の岸田郁葉氏の協力を得た。

研修会、勉強会開催には多方面からの助力を頂いた。改めてご協力いただいた各位への感謝を表明する。

研修活動では、部員数が少ないと企画実行ともに困難な面が出てきやすい。次年度はまた、新たな研修部体制で臨む事になるが、各会員の積極的な研修部活動への参加を希望する。その上で、地域に根ざした研修活動や、経験年数を越えた幅広い支持をうけることのできるような研修会など、いろいろな方法を検討し、よりよい研修活動を目指してゆきたい。

I-1-2 編集部

1. 活動報告

今年度は会誌19巻4号・20巻1号～3号を発行した。20巻1・2号は合併号とした。配布部数は、211部（会員119、講読会員70、交換7、寄贈15）である。

主な内容、発行日は下記のとおりである。印刷部数は各300部。

[19巻] (1999年)

4号 (発行 H12. 4. 4. 56頁)

EBM診療行為の根拠と情報収集

森本 剛、福井 次矢

日本におけるエビデンスに基づく医療の推進—コクラン共同計画に注目して—

柳 元和

「雑索」を知っていますか?—日本語文献のVerifyのために—
中村 雅子
他

14巻～18巻の目次

[20巻] (2000年)

1・2号合併号 (発行 H12. 7. 31. 78頁)

特集：病院図書館の利用者教育を考える

利用者教育と病院図書館 今田 敬子

病院図書館が目指していく「情報リテラシー」教育の方向 寺野 康宣

北海道看護協会図書館の利用者教育

中野 禎子

医学図書館の利用者教育—現状と展望—

坪内 政義

利用指導—授業と講習会の事例—

首藤 佳子・加藤 美紀

総会記念講演「病草紙にみられる疾患と今日の意味」

荻野 篤彦

他

[別冊] (発行 H12. 10. 1. 104頁)

「わかる医学用語」

著者 濱口 恵子

印刷部数 550部

3号 (発行 H12. 12. 13. 53頁)

特集：看護部と図書館員とのかかわり

国立京都病院看護部の図書館活動

岩島貴久美

卒後2年目看護研究への支援

望月 雅子・山内利津代

医学中央雑誌による看護文献検索のコツ

松田 真美

電子メディアの有効利用—より早く&適切な情報を入手する方法

設楽真理子

看護婦への統計指導

田引 淳子

他

4号 (発行予定 H13. 3月末発行予定)

近畿病院図書館協議会創立25周年記念号

〈会長挨拶〉

創立25周年を迎えて 会長粉川 皓仲

〈祝 辞〉

お祝いの言葉

白方 誠弥

ユニークな専門家集団近畿病院図書館協議会

長門谷洋治

創立25周年を祝して

茂幾 周治

思い出すことども

有本美津子

病院図書館から病院図書館へ 前田 元也

近畿病院図書館協議会創立25周年記念フォーラム記念講演

「医学と生命倫理」

加茂 直樹

特集「病院図書館と著作権」

著作権の法的側面 その趣旨と目的

黒澤 節男

デジタル情報化時代における著作権

名和小太郎

病院の機能と図書館への期待 中村 充男

病院図書室における医学情報サービスと著作権 山室真知子

医学情報の現況と独自性 首藤 佳子

功労賞受賞にあたって

事務局長挨拶 小田中徹也

部会活動

明日の協議会を支える若手病院図書館員

歴代役員名簿 (平成7年度～平成12年)

近畿病院図書室協議会年表 (1995～2000年)

協議会研修会記録

総会記念講演 (第21回～第26回)

会員業績集 (1994年～2000年)

「病院図書室」総索引 第14巻～第19巻

会則

平成12年第3回第4回幹事会報告

図書館員の掲示板

編集後記

[21巻1号] (2001年)

特集：病院図書館の可能性を探る

シリーズ掲載について：

「臨床に役立つ雑誌」

⑱産婦人科の雑誌 (Vol. 20, No. 1・2)

⑲胸部外科の雑誌 (Vol. 20, No. 3)

「いますぐ役立つホームページ」

⑦学会検索データベース (国内編・海外編)
(Vol. 19, No. 4)

⑧外国雑誌オンラインジャーナル検索サイト
(Vol. 20, No. 1・2)

⑨看護関連の文献検索データベース (Vol.
20, No. 3)

「相互貸借のための便利ノート」

⑦著作権 (Vol.19, No.4)

⑧単行本の文献 (Vol. 20, No. 1・2)

掲載広告各社：

サンメディア (裏表紙)：年間契約

ナカバヤシ (B5)：年間契約

ベルブック (B5)：年間契約

医学中央雑誌刊行会 (B5)：年間契約

厚生社 (B6)：年間契約

ノウカ：(単発) 19(4)のみ

科学技術振興事業団：20(3)より年間契約

編集会議 (2000年度)：

第1回 4月21日：国立京都病院

第2回 5月26日：松阪中央総合病院

第3回 6月23日：アソシア名古屋ターミナル

第4回 10月4日：アソシア名古屋ターミナル

第5回 11月26日：アソシア名古屋ターミナル

第6回 1月20日：ナゴヤグランドホテル

第7回 3月10日：ナゴヤグランドホテル

2. 総括

1) 19巻4号が約4ヶ月の遅れを出し、今年度発行となったことをお詫びしたい。この原因として、原稿の収集および全体的作業の遅れが大きく影響したと反省している。昨年よりの3ヶ月の遅れを取り戻すことができなかったことは大変残念である。今後の対策として、企画の早期立案、原稿締め切り日の厳守の徹底などが求められる。

2) 企画は各号毎に編集会議にて行い、編集方針に基づき企画発行することができた。

3) 20巻1号より会誌名を「病院図書館」ISSN 1345-6857と改め、表紙の装丁および大幅なレイアウトの見直しを行った。

4) 20巻1号より印刷所を従来の小西印刷所より株式会社リョーイン (取次店京都営業所)に変更した。

印刷所：名古屋市小村区岩塚町字高道1番地
株式会社リョーイン 枇杷島営業所

5) 投稿規定・参考文献記載規定を見直し、改正した。参考文献の記述については、雑誌はバンクーバースタイルを基準としたが、単行書、電子文献については編集部にて独自に決定した。

- 6) 会誌名簿のレイアウトを変更した。
- 7) 著者への原稿依頼書を改訂し、原稿送付用紙を新たに作成した。
- 8) 部員の減少により作業量の負担が過剰になり、増員を幹事に求めたが、進展はなく、結局編集部員より会員へ直接勧誘を行った。今年度3名の新部員を得ることができた。
- 9) 部員の所在地域が広範囲に広がっているため、会議参加への利便性を考え、部会を名古屋駅内のホテルを利用することとした。

3. 編集方針

本年度も従来の会誌としての編集方針を継承し、さらに病院図書館担当者の専門性を高めるために、誌面上から貢献できる記事作りを考えた。記事内容としては、会員による業務の事例報告はもとより、担当者にとって必要な幅広い知識の提供を目指している。ニューメディアの紹介から実用にいたるまで担当者の参考となる記事を取り上げ、事例を交えて紹介することに努めた。

なお、「臨床に役立つ雑誌」、「いますぐ役立つホームページ」および「相互貸借のための便利ノート」のシリーズ掲載を続行していく。

2001年21巻は、編集方針に基づき、誌面の充実に努めていきたい。21世紀病院図書館員の将来に着目し、広範囲な分野に目を向けた記事づくりを目指したい。1号の特集は、「病院図書館の可能性を探る」とし、将来的構想を考えてみた。また、新たなシリーズとして、「What's EBM」を設ける。京都大学 中山健夫先生による病院図書館員へのEBMに関する教育的シリーズをご提供いただけるものと考えている。

2号は総会・研修会特集等、3号、4号は特集記事や各論文で編集方針を深め、ニュース記事や会員間の情報交換のページを充実するとともに、関連記事(図書館、医療関係)の紹介の充実を計る。従来の読みやすく、親しみがあり、アクティブな誌面づくりを心がけることは継続する。会則は2号、投稿規定は毎号掲載する。

4. 会誌「病院図書館」別冊発行について

「わかる医学用語」を「病院図書館」2000年20巻別冊として発行した。

1991年6月 会報12巻2号通巻97号より1998年「病院図書室」18巻4号まで連載されてきた「医学用語あれこれ」を別冊として編纂した。著者 濱口 恵子(高槻赤十字病院)。発行者 近畿病院図書室協議会。ページ数104頁。価格 1,500円。発行2000年10月1日。会誌およびフォーリオトークに紹介し、好評発売中。厚生社高槻店にて店頭販売中。

5. 部員(2001年3月現在)

部長: 森川 治美(松阪中央総合病院)

部員: 大仲 牧(市立岸和田市民病院)

大橋真紀子(社会保険中京病院)

香川由美子(社会保険広島市民病院)

春日井泉江(豊橋市民病院)

瀬戸 嘉枝(神奈川衛生学園専門学校)

中嶋 和子(西宮市立中央病院)

濱口 恵子(高槻赤十字病院)

協力員: 前田 元也

I-1-3 統計調査部

[図書室統計調査報告書の発行]

- a. 調査対象期間: 平成11年度
(1999年4月~2000年3月)
- b. 調査項目: 図書室管理機能、サービス機能、統計
- c. 作業経過:
2000. 7. 17. 調査用紙を発送(118施設)
2000. 8. 17. 回答締切日
2000. 10. 18. 報告書の発送(120施設)
- d. 回答施設: 施設(回答率%)
- e. 文献の相互利用-協議会全体での件数-
-申込-(82施設)

協議会会員	16,197件 (33.6%)
会員以外の病院	1,850件 (3.8%)
大学図書館	14,310件 (29.6%)
文献手配業者	12,236件 (25.3%)

その他	1,450件 (3 %)
上記区別なし	2,251件 (4.7%)
合計	48,294件 (100 %)

－受付－ (82施設)

協議会会員	15,327件 (81.8%)
上記以外の病院	2,750件 (14.7%)
その他	257件 (1.4%)
上記区別なし	397件 (2.1%)
合計	18,731件 (100 %)

【経費】 191,860円

I-1-4 目録編集部

「現行雑誌所在目録 2000年版」の発行：「現行雑誌所在目録 1999年版」の発行に引き続き「現行雑誌所在目録 2000年版」を編集発行した。参加機関は99機関。

この目録には会員機関が所蔵する2000年の国外雑誌809誌および国内雑誌1,167誌を収録した。1999年版と同じく、図書室の相互貸借業務を行っていない機関の所蔵データおよび相互貸借受付に応じられない雑誌のデータは除外したものの、今年度は昨年度より参加機関数、収録誌数ともに減少した。会員間の相互貸借業務を円滑にすすめるために次年度は全会員からの所蔵データを収録したい。

この目録の発行経費は会員の年会費から捻出し、[非売品]として会員に配布した。

I-1-5 会員業績

[学会発表]

(1) 山室真知子 (京都南病院)

医学専門情報の一般市民への公開－診療録開示への動きと病院図書室－

第86回全国図書館大会(専門図書館分科会)
(那覇) 2000. 10. 25-27

(2) 山室真知子 (京都南病院)

患者と地域の人々への医学情報の提供－病院図書室の役割－

第2回医療マーケティング研究会 (東京)

2001. 1. 20

[誌上発表]

(1) 山室真知子 (京都南病院)

シンポジウム「図書室業務のスリム化とパワーアップ」

日本病院会雑誌 2001 ; 48 : 283-6.

(2) 小田中徹也 (国立京都病院)

ウェブに跋扈する怪獣や昆虫たち－怪獣篇－

ほすびたる・らいぶらりあん 2000 ; 25 (1) : 61-2.

(3) 小田中徹也 (国立京都病院)

ウェブに跋扈する怪獣や昆虫たち－昆虫篇－

ほすびたる・らいぶらりあん 2000 ; 25 (2) : 135-7

(4) 小田中徹也 (国立京都病院)

館種別図書館概況「病院図書室」：近畿病院図書室協議会

図書館年鑑 2000年版 p.91-92. 日本図書館協会

I-2 組織活動について

I-2-1 幹事会

昨年同様、4回の幹事会を開き、会の運営にあたった。

第1回 (2000/ 4/27) : 国立京都病院

第2回 (2000/ 7/13) : 淀川キリスト教病院

第3回 (2000/10/ 5) : 国立京都病院

第4回 (2001/ 1/18) : 淀川キリスト教病院

I-2-2 役員会

平成13年2月15日、国立京都病院において開催し、今年度の活動・事業報告、会計報告、来年度の活動方針案、事業計画案、予算案を第27回総会議案書草案に沿って検討した。なお、この会議では司会を予定していた会長は挨拶をされたものの、急用のため中座され、事務局長が

代わって議事進行役を務めた。

次に、来年度の会長については、粉川現会長は今年3月末をもって退職のため、中村充男社会保険神戸中央病院院長が選出され、事務局長については小田中徹也(国立京都病院司書)が再選され、それぞれ総会に諮ることになった。

I-2-3 会員の状況

会員数：119機関(平成13年2月現在)

(近畿外 39機関、病院外 8機関)

異動：入会；1機関

京都民医連第二中央病院(京都)

退会；4機関

西陣病院(京都)、田中外科病院(大阪)

健生病院(青森)、行岡保健衛生学園(大阪)

I-2-4 対外交流

日本医学図書館協会の第71回総会(2000/5/18-19 秋田)へは、事務局長がオブザーバーとして出席し、役員や会員との交流を図った。また、6月には東海地区医学図書館協議会へ総合目録1997年版の書誌データを受け渡した。

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第76回例会(2000/4/28 北野病院)へ事務局長が出席した。第77回例会(2000/11/9 滋賀医科大学)へは事務局長と幹事の山室真知子が出席した。さらに、近畿地区地区医学図書館協議会平成12年度シンポジウム(11/16 天理よろづ相談所病院・天理大学図書館)ではその実行委員として研修担当幹事の黒佐孝太郎が従来どおり加わり、当日の参加者も8名あった。

今年度の日本病院会第23回全国図書館研究会(2000/10/20-21 東京)の後援名義の使用についても例年どおり協力した。

対外交流のうち、特に病院図書室研究会との共同事業については「はじめに」で、また次項の「共同事業」でも詳しく述べた。この他、各地区ネットワークとの交流では主にそれぞれの会誌や機関紙の交換を通じ、交流している。

対外交流の中で、これまでになかった新しい

動きが年末に生じた。それは、京都大学大学院医学研究科からの「EBM指向診療ガイドライン策定にあたっての医学文献の検索分析合同作業班活動」の協力依頼である。EBMの臨床の場への普及・浸透を考える上でも、病院図書館員の果たす役割に鑑み組織的に協力することになり、現在、精力的に作業を進めている。今後、この活動が病院図書館員にとって実践的にEBMを学び訓練する場として発展していくことが期待される。

I-2-5 共同事業

病院図書室研究会との共同事業については、7月8日に聖路加国際病院において第7回共同事業運営会議が開催された。事務局長の小田中徹也、2つの共同事業のそれぞれの病図協側責任者の首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)と須井麻由美(三菱京都病院)の3名が出席した。この後、共同事業そのものの運営や作業は継続されたが、11月に京都市で開催予定となっていた第8回共同事業運営会議は延期となった。この間の経過について、幹事会では次の報告事項に示すような検討を行った。

●第2回幹事会(7/13)における事務局長の第7回共同事業運営会議報告

共同事業運営会議の性格や位置付け、参加構成員について、次のことを再確認した。共同事業運営会議は現在取り組んでいる二つの事業を実施、運営するための実務会議的性格のものであり、両会が報告を受けて、これを承認の上、事業を進めていく。したがって、実際に事業に携わる者が会議の中心的参加者となる。現在のところ、フォリオでは須井麻由美と奥出麻里。認定制度では首藤佳子と河合富士美、の両会からの事業責任者および両会の統括責任者である小田中徹也と直江理子(会長代行)。また、各事業担当者も会議に参加するよう配慮し、両会の役員も経費の許すかぎりオブザーバーとして参加を促す。「会議構成メンバー」の名称は廃止する。

フォリオのチームメンバーに交代があり、長谷川湧子（NTT関東）と下原康子（東邦佐倉）が降りて、及川はるみ（聖路加）が新たにメンバーとなった。また、フォリオ内の非公開掲示板のパスワード配布範囲については、それぞれ作業用のウェブ掲示板であることから、フォリオ・チームメンバーと認定委員および病図研会長（代行も含む）と病図協事務局長に限ることとした。なお、パスワードはウェブマスターが各当該者に直接通知することとした。

認定制度については、病図協が今年始めに提案した「試験」を主体とする実施案が再確認された。具体的な内容と実施要綱については認定委員会で作業を進め、今年の秋までにまとめることにした。（当会議報告書は、今年度世話人の病図研会長から後日、報告予定。）

●第3回幹事会（10/5）における「第7回共同事業運営会議報告書」についての検討結果

その後の8月始め、今年度世話人から「第7回共同事業運営会議報告書」として病図協に提出された報告について幹事会で検討した結果、会誌への掲載可否も含め次の結論となり、平成12年10月10日、直江理子会長代行を通じて病院図書室研究会へ報告した。

今年度の世話人がまとめた当報告書については、病図協の会誌にはこれを「報告書」として掲載せず、次のような経過報告だけを掲載することになった。

第3回幹事会において「第7回共同事業運営会議報告書」が事務局長より紹介され、経過説明があった。その結果、不穏当な表現を含んだ内容および関係者の事情説明やこの報告書に対するその後の病図研内の動向を基に判断して、正当な会議報告書とは認められない。したがって、次の共同事業運営会議においてこの報告書に対する病図研側の考えを聞き、納得のいく報告書を再作成してもらう。それに同意を得られない場合は、両会の共同事業については再考する。との結論になった。

●第4回幹事会（2001/1/18）における病図研回答に対する検討結果

「第7回共同事業運営会議報告書」の取り扱いに関する平成12年10月26日の病院図書室研究会の回答、および平成13年1月16日に認定委員会から提案された科研費申請について検討した結果、次のような結論になった。

「第7回共同事業運営会議報告書」については、病図協の要望に対する病図研役員会の意向を踏まえ、昨年11月末に予定していた次回共同事業運営会議において、両者間で話し合うことを要望していた。その意味で、この件に関する病図研の回答は（報告書を訂正できないということと運営会議の一方的延期通告の）2点において、病図協の要望に沿った結果ではない。

しかしながら、共同事業の意義に鑑みて、早急に従来どおりの共同事業運営会議を開いて両者間で合意点を探り当て、その上で、共同事業をこれまでどおり継続していくことを望む。

病図協として共同事業を来年度も継続するためには、来る3月22日の今年度総会において事業計画として総会承認を得なければならず、遅くともこの日までには第8回共同事業運営会議を開きたい。これに理解と同意を得られない場合は、病図研には共同事業継続の意思は実質ないものと認めざるを得ない。

病院図書館員認定委員会から提案された厚生省の科研費申請については、共同事業の一環として申請することを了承する。

この結果を平成13年1月19日、病院図書室研究会へ報告したが、2月15日現在、病院図書室研究会からの回答はなく、その回答待ちの状態である。病図研の次回役員会の日程については不明であるが、少なくとも2月中には開かれるものと推測される。その結果によっては、年度内に第8回共同事業運営会議が開かれることになり、そこでの話し合いの結果を踏まえた上で、来年度の共同事業について継続か否かを判断したい。

議案Ⅱ 平成12年度会計・監査報告

平成12年度 会計監査

(収入の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金	1,501,992	1,501,992	
会費	3,700,000	3,410,000	H12×112=3,360,000 H11×2=40,000 入会金×1=10,000
事業収入	825,000	794,079	
会誌調読会費	420,000	402,000	H11×4=24,000 H12×63=378,000
研修会費	55,000	64,500	第93・94回研修会参加費 第7・8・9回勉強会参加費
25周年記念フォーラム	350,000	279,000	会費、懇親会費、記念グッズ代
その他	—	48,579	銀行利息、会誌・「わかる医学用語」 売上げ(送料含む)
広告掲載料	220,000	135,000	ナカバヤシ、他
その他	—	0	
合計	6,246,992	5,841,071	

(支出の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	差引増△減	摘要
総会費	150,000	89,740	60,260	選挙・議案書費用 特別講師謝礼・交通費
事務費	100,000	64,896	35,104	封筒印刷費 銀行手数料、他
通信費	120,000	42,830	77,170	事務局、各部会連絡、会 員宛通信費
交通費	500,000	407,400	92,600	幹事会・各部会、他
事業費	4,270,000	4,289,917	-19,917	
会誌発行費	2,500,000	2,259,147	240,853	会誌18(4)、19(1/2, 3) 印刷費・発送費 「わかる医学用語」作成費
研修会費	200,000	107,565	92,435	第93回・94回研修会
25周年記念事業費	700,000	1,093,036	-393,036	国際交流会館会場費、懇 親会費、他
現行雑誌所在目録	470,000	508,074	-38,074	現行雑誌所在目録作成 費、発送費
その他事業	400,000	322,095	77,905	統計調査報告書作成費、 レンタルサーバー代、他
共同事業関連費	300,000	269,180	30,820	交通費、他
資料費	150,000	74,634	75,366	Bull Med Lib Assoc調読料 朝日新聞の用語の手引き 「情報の科学と技術」調読料
会場費	300,000	86,841	213,159	会場費、他
予備費	300,000	0	300,000	
雑費	56,992	19,701	37,291	JMLA総会参加費、他
合計	6,246,992	5,345,139	901,853	

収入	金額	支出	
		金額	金額
前年度繰越金	1,501,992	総会費	89,740
会費	3,410,000	事務費	64,896
事業収入	794,079	通信費	42,830
会誌調読会費	402,000	交通費	407,400
研修会費	64,500	事業費	4,289,917
25周年記念フォーラム	279,000	会誌発行費	2,259,147
その他	48,579	研修会費	107,565
広告掲載料	135,000	25周年記念事業費	1,093,036
その他	0	現行雑誌所在目録	508,074
		その他の事業	322,095
		共同事業関連費	269,180
		資料費	74,634
		会場費	86,841
		雑費	19,701
		翌年度繰越金	495,932
合計	5,841,071	合計	5,841,071

上記決算については、会計監査を終了しました。
平成13年3月13日

亀井真由美
高井真紀子

議案Ⅲ 平成13年度活動方針

今年度、創立25周年記念行事を無事終えた当協会は、「IT革命」といわれる情報環境の大きな変化の中で、来年度からは次の四半世紀に入る。病院図書館は医療における生命科学情報部門の重要な担い手として、その充実と発展が求められていると認識する必要があるだろう。

そこで、先ず病院図書館にとって多くの課題を含む「著作権」については、デジタル情報化の中で益々複雑化すると共に重要性を増している。当協会としては今年度の「25周年記念フォーラム」におけるシンポジウムを出発点に、今後も会員への啓蒙活動とともに関係機関への要望活動も試みたい。

また、臨床医学の分野で近年注目されている Evidence Based Medicine (EBM) については、図書館員の関与する部分が大きく、高い専門性も要求される側面を持っている。これについても京都大学関係をはじめとするEBMの専門家との提携を深め、ワーキンググループ活動、研修会プログラム、会誌上での啓蒙記事などによって、病院図書館員への普及を図っていききたい。

次に、従来からの継続事業については、来年度も医学文献情報活動、教育研修活動、出版広報活動、年次統計調査を実施していききたい。この中で、1997年版以来の改訂となる『医学雑誌総合目録』の改訂作業の着手に各会員の格別の協力をお願いしたい。

病院図書室研究会との共同事業については、現在流動的な要素もあるが、共同運営ホームページ「フォリオ」によるインターネットの活用促進と、認定制度の実施による病院図書館員の専門性を定着させたい。

なお、財政的な側面では、来年度は若干の余裕が予測される。そこで、幹事あるいは事業部員の協議会活動において事務作業的側面で外注できるものは、さらに外注（アウトソーシング）することによって負担軽減を図り、事業活動への参加を容易にしていきたい。

議案Ⅳ 平成13年度事業計画

1. 医学文献情報活動

「医学雑誌総合目録」2002年版の発行準備
「現行雑誌所在目録2001年版」の発行
総合目録データベース（Lettura）の活用

2. 教育研修活動

研修会・勉強会の開催
関連団体の研究研修会への案内と参加奨励

3. 出版広報活動

会誌『病院図書館』の季刊発行
ホームページの継続と内容更新

協議会の事業活動紹介の小冊子発行

4. 年次統計等の調査活動

年次統計と相互貸借の調査

5. 共同事業

病院図書室研究会との共同運営ホームページ「フォリオ」の継続および病院図書館員認定制度の実施（交渉中）
京都大学大学院医学研究科との「EBM情報システム・ワーキンググループ」活動

平成13年度事業計画（補足）

「5. 共同事業」について

病院図書室研究会（病図研）と交渉中であった共同事業については、本来、平成12年11月に開催予定であった第8回共同事業運営会議を遅くとも今年3月22日の総会までには開催したいことについて、1月19日に病図研に要望していた。その後、3月13日になって開催日不明の役員会決定とする回答があった。

その内容は、過去3年間継続し現在も進行中の二つの具体的な共同事業を続けるにあたっては、「基本的事項の両会での作成と両会役員会での確認、合意を進めたい。このち改めて共同運営会議を開催することとしたい。」とのことであった。また、そのためには先ず「首脳部で話し合いを持つことも考慮する。」との意向が示された。さらに、共同事業の一環としての平成13年度の科研費申請については、「共同事業が今後も継続することを両会役員会で合意後、検討する」とのことで、今回は実質、了承されなかった。

この回答を受け、次の点と方針について幹事および共同事業関係者に確認を求めたところ了解されたので、3月16日、この結果を病図研に伝えた。

1) 日程的に実現不可能な提案が示され、当協議会幹事会の要望が全く理解されなかったこと。2) すでに事業化され運営や作業が進んでいる事柄について、その事業の当事者や関係者を抜きにしての「首脳部」だけによる交渉が提

案されたこと。3) 科研費申請に関する判断にみられるように、病図研の共同事業継続の意思について信頼性に欠けること。

その結果、病図研との共同事業を来年度の事業計画案として総会へ上程することは見送らざるを得ないこと。また、現在運営されている共同事業については扱いを保留とし、4月中に開催予定の来年度の第1回幹事会において共同事業に携わる関係者の出席も求め、最終的にその取り扱いを決めること。病図研においてこの決定に何か意向があれば、それまでに伝えてもらうこと。以上の結論になった。

したがって、議案V. 平成13年度予算案において計上されている「共同事業関連費」については、来年度はそのまま「対外協力活動費」として計上し、日本医学図書館協会およびその地区協議会あるいは京都大学大学院医学研究科などとの幅広い対外協力活動や、関連団体や機関への様々な働きかけに要する費用に充てたい。

議案V 平成13年度予算

(収入の部)		(支出の部)		単位 円
費目	金額	費目	金額	摘要
前年度繰越金	495,932	総会費	150,000	選挙費用、議案費費用
会費	3,780,000	事務費	200,000	特別講師謝礼・交通費
平成13年度		通信費	100,000	封筒印刷、年賀状印刷
@30000×119		交通費	450,000	他
平成12年度		事業費	3,710,000	事務局・各部会連絡、
未納		会誌発行費	2,600,000	会員通知、他
@30000×7		研修会費	200,000	役員会、幹事会、各部
事業収入	797,000	現行雑誌所	510,000	会、JMLA近畿地区例
会誌購読会	438,000	在目録		会、他
費		その他事業	400,000	
平成13年度		共同事業関連	300,000	費
@6000×70		資料費	100,000	会誌20(4)、21(1-4)・
平成12年度		会議費	150,000	送料、執筆料
未納		予備費	150,000	定例研修会2回・事例
@6000×3		雑費	36,932	報告会・勉強会
研修会費	85,000			印刷費、発送費
定例研修会				12年度年次統計報告、
@1000×30×2				インターネット関連
事例報告会				費、小冊子作成費
@500×35				雑誌総合目録準備費
勉強会				交通費、他
@500×15				
その他				
その他				
広告掲載料	274,000			
合計	5,346,932	合計	5,346,932	

議案VI 役員改選

平成12年度 選挙管理委員

星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子
西宮市立中央病院 中嶋 和子

平成13年度 役員

幹事

松本 純子 (住友病院)
山崎 捷子 (淀川キリスト教病院)
山室 真知子 (京都南病院)
林 伴子 (社会保険神戸中央病院)
森川 治美 (松阪中央総合病院)
神田 智香子 (宇治徳洲会病院)

会計監査

田中 文子 (済生会兵庫県病院)
黒佐 孝太郎 (奈良社会保険病院)

議題VII 平成13年度会長 事務局長承認

平成13年度

第十二代 会長 中村 充男

(社会保険神戸中央病院 院長)

事務局長

小田中 徹也

(国立京都病院 図書室司書)